

人より牛の多い島

1. かわってきた食事



やってみよう『すきな料理』

あなたのすきな料理（おかず）はなんですか。3種類あげてみましょう。
()



やってみよう『すきな料理ベストスリー』

それぞれあげた、すきな料理を発表しあい、あなたのクラスの「すきな料理ベスト3」を選んでみましょう。

1位

2位

3位



やってみよう『どんな材料が使われているか』

それでは、クラスのすきな料理ベスト3で使われている材料はどんなものですか。話し合って、まとめてみましょう。

1位の料理

2位の料理

3位の料理

そのなかで、一番多く使われている材料は何ですか。

()

日本人の代表的な料理は魚料理です。むかしからこのんで、魚料理を食べてきました。しかし、ある調べによると、ちかごろの子どもたちは、魚や、やさい、くだものより、肉類がすきとのことですが、あなたのクラスはどうですか。



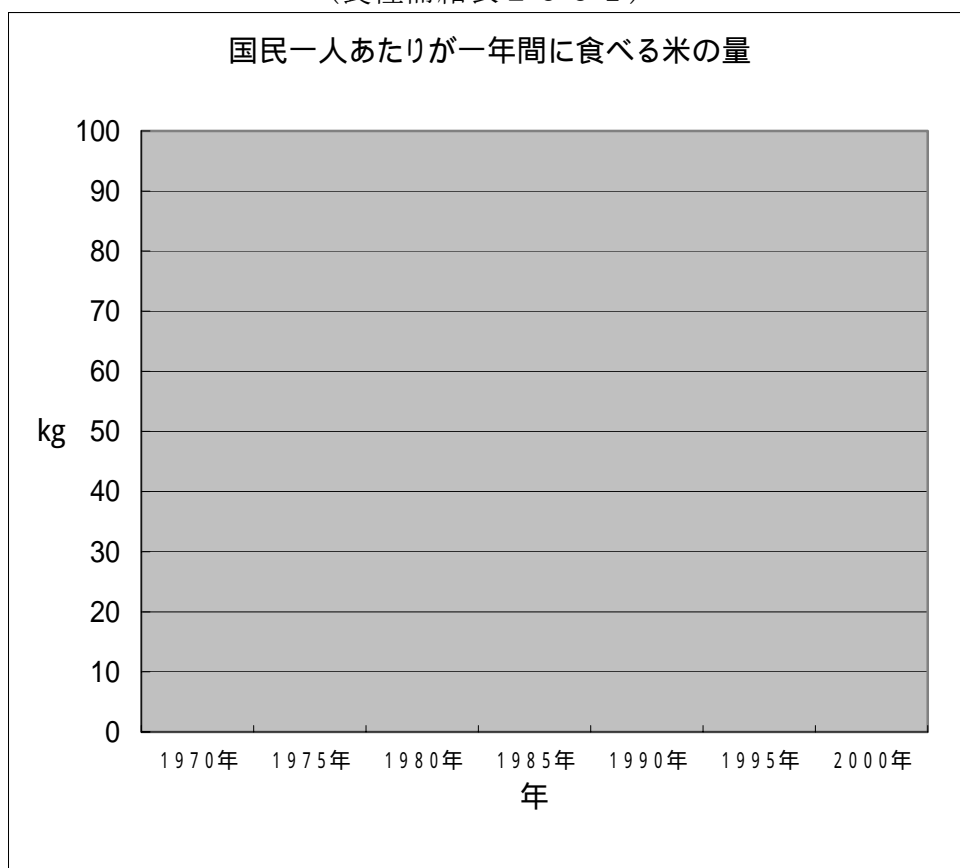
やってみよう

次の表は、国民一人当たりが一年間に食べる米と牛肉の量です。

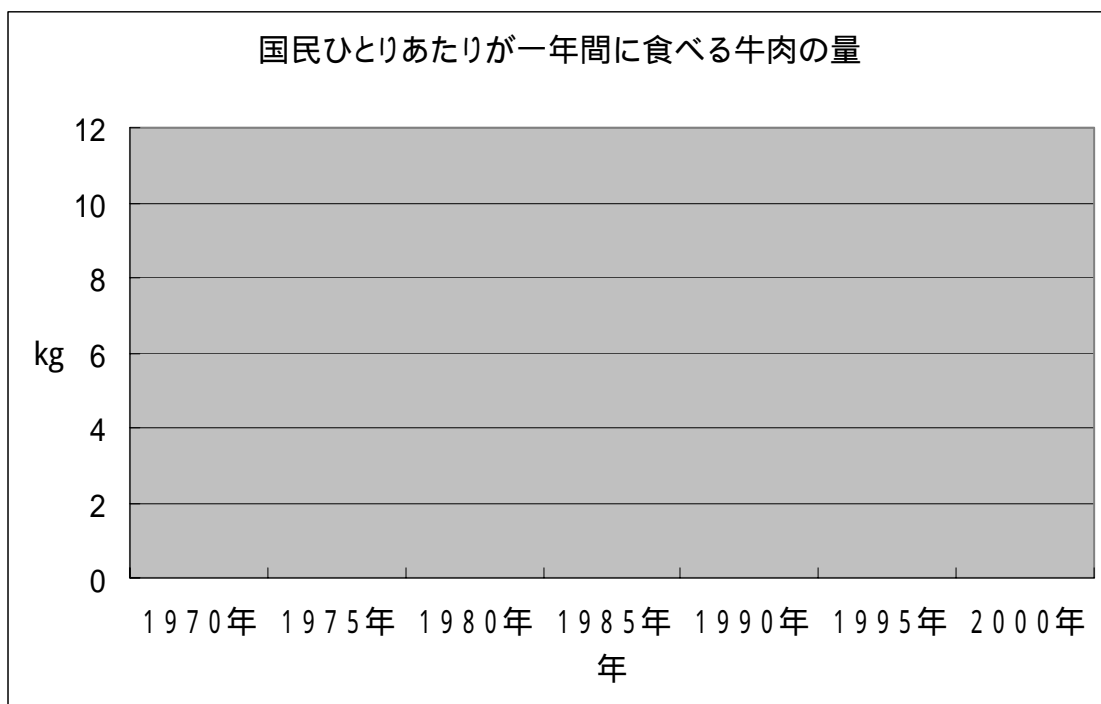
①表を見ながら米の食べる量を折れ線グラフにあらわしてみよう。

	米	牛肉
1970年	95kg	3 kg
1975年	88 kg	3.5 kg
1980年	78 kg	5 kg
1985年	74 kg	6.5kg
1990年	70 kg	8.8 kg
1995年	67kg	12 kg
2000年	64 kg	12 kg

(食糧需給表2001)



②同じようにして牛肉の食べる量を赤ペンで折れ線グラフにあらわしてみよう。



☀️ わかったことをかいてみよう

()

2. ちく産と竹富町

牛、ぶたなどの家ちくを飼って、牛にゆうをとったり肉用に太らせたりする仕事をちく産といいます。

この單元では黒島のちく産の様子をみていきましょう。



やってみよう

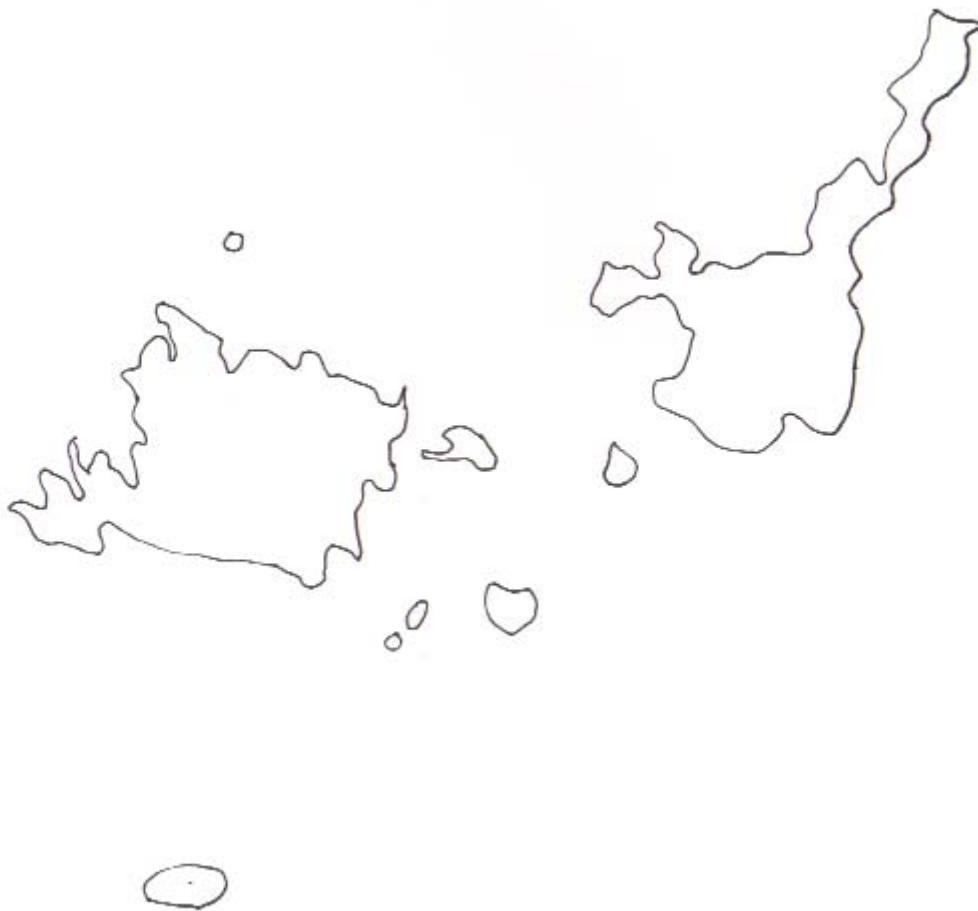
- ①表をもとに、地図に一点につき人100人として、えんぴつで点を打ってみよう。(人間の数が100人以下の島も一つ点を打ちましょう。)
- ②表をもとに、地図に一点につき牛100頭として、赤えんぴつで点を打ってみよう。(牛が100頭以下の島も1つ点を打ちましょう。)

表 1

島の名前	人間の数	牛の数
竹富島	279	349
小浜島	447	821
西表島	1976	2064
鳩間島	54	18
波照間島	551	529
新城島	8	460
黒島	199	2697
石垣島	43302	27131

(人の数) 平成12年国勢調査

(牛の数) 平成12年12月現在、農林水産部畜産



☀️ わかったことをかいてみよう

()

3. 牛の島、黒島

それでは黒島のちく産の様子を黒島小学校に通うけんちゃんといっしょにみていきましょう。

<けんちゃん>

僕、けんちゃん。黒島小学校の3年生。今日は黒島のちく産をしょうかいするよ。



けんちゃんの家は、牛を70頭あまり育てているちく産農家です。けんちゃん自身もよく牛の世話を手伝います。黒島で近々ひらかれる牛のセリに、けんちゃんの家で育てた牛も出荷されます。



やってみよう

近々、セリに出される牛たちは次のどの牛でしょう。

<あ>のうし



<い>のうし



<う>のうし



<え>のうし



(記号：)

えらんだ理由かいてみよう！

()

黒島の農家は子牛をセリに出します。どうして成牛ではなく子牛を売るのでしょうか。

()

<けんちゃん>

成牛まで育てて売るとなると、いい肉をつくるために加工したえさを与えなければならぬだけでなく、子牛にくらべて育て方がむずかしいんだよ。

けんちゃんの家ではどのようにして牛を育てているのでしょうか。さっそく見ていきましょう。



やってみよう

次に、けんちゃんを書いた絵日記があります。つぎのページに文章とさし絵がばらばらになっています。くみあわせましょう。



①	②	③	④	⑤	⑥	⑦

<あ>

朝、見回りをしていたお父さんが大あわてで牧場から帰ってきました。にんしんしていたメス牛が難産だとのこと。さっそく一家全員でかけつけて、メス牛の出産を手伝いました。近所のおじさんもかけつけてきて手伝ってくれました。難産のときはどんな仕事をしていてもその仕事をやめて牛のもとにかけつけなければならないのです。さいわい、メス牛は無事出産しました。

<い>

いよいよ牛のオークション、セリの日。本土から買いに来る人もたくさんいます。うちの牛が1番いいねだんがつかしました。うれしいけれど、子牛ともこれでお別れです。そう思うとさびしくもありました。

<う>

牛の定期健康しんだんの日です。石垣からじゅう医さんがきて牛の健康じょうたいをみてくれました。少し元気のない牛がいたので牛舎にいらしておきました。はやく元気になってほしいです。

<え>

今日は、お父さんと牧場をまわって牛のかんさつをしました。にんしんしている牛を一頭みつけました。さっそく牛をお父さんと目のゆきとどく牧場に移しました。これなら子を産んだときにすぐかけつけられるからです。どんな子牛が生まれるか楽しみだな。

<お>

今日はお父さんと牧場をまわって牛のようすのかくにんです。メス牛が発情しているのをみつけました。人工授精師の免許を持つお父さんが授精をおこないました。最近では黒島にも人工授精師の免許を持つ人が増えてきたそうです。僕も大人になったら人工授精師の免許をとって、自分で授精できるようになりたいな。

<か>

今日はさい草地（牛のえさにする草を生やしているところ）の草をかりとり、ラッピングしました。こうしておけば草が雨にぬれることがなく、発酵（はっこう）して、いつでもよいえさを牛にあげることができます。けっこうたいへんな仕事だった。

<おとうさん>

けんちゃん、いつも手伝ってくれてありがとう。ところでけんちゃん、昔はこの絵日記に書かれている仕事以外に、牛をしょうどく用のお風呂に入れる仕事もあったんだよ。



考えてみよう

なぜ昔は牛をしょうどく用のお風呂に入れたのでしょうか。

()

オオシマダニとのたたかい

昔から八重山地域ではダニが発生し、そのダニが原因でバベシア病という病気にかかる牛が後をたちませんでした。

<おじさんのはなし>

春から秋にかけてダニが発生してね。そのダニが原因で牛が病気にかかって何頭も死んだんだよ。病気にかからなくてもダニに血を吸われて、えいようしっちょうになって死んでいく子牛があとをたたなかつたよ。

セリに出す牛もほとんどがダニに血を吸われてえいようが足りてなくてね、安いねだんでしか売れなかつたよ。黒島はちく産しか仕事がないから、みんなとても困ってね。ダニのぼくめつがはじまつたんだ。

黒島ではダニをぼくめつするために牛をしょうどくのお風呂に入れる以外にも、おこなわれたことがあります。次の5つのなかから選んでみよう。

- 1、ダニのついた牛の体にぬり薬をつけた
- 2、病気にかかった牛を助けるために、飲み薬を飲ませた。
- 3、ヘリコプターで薬を空から島中にばらまいた。
- 4、薬をごはんにまぜてあたえた。
- 5、ちゅうしゃをうった。

()

※えらんだ理由をかこう！

()

おじさんのはなし

昔はだにをやっつけるためにおふろに入れて消毒していたんだ。重い牛をおふろに入れさせるのはとてもたいへんだったよ。でも、その努力のかいあって、ダニは1990年に絶滅したよ。



やってみよう

おじさんが薬浴槽に牛を引っばっている様子を思い浮かべて絵にしてみよう。

4. 良い牛をつくるために

次の写真をみてください。これは黒島の牧草地です。

<A>





2つの牧草地を比べて、違う点をあげてみよう。

()

牛をたくさん増やすことのできる草地はどちらだろう。

()

えらんだ理由かいてみよう

()

<おとうさん>

黒島はね、石灰岩質の島なんだよ。だから昔の牧草地は岩がごろごろしていた。それだけでなく、ソテツといった牛が食べない草木もたくさん生えていてね、牛が食べれる草が少なかったんだよ。

そこで牧草地の石をとりのぞく作業をおこなったよ。だけど大きな岩はとりのぞけなかった。大きな岩がとりのぞかれて、地中の岩をたがやして、平らな牧草地になったのはスタビライザーという機械をつかってからだよ。

今はほとんどの牧草地がスタビライザーによって岩や牛の食べない草木がとりのぞかれているよ。

5. 黒島のちく産農家

黒島にはどんなちく産農家があるのだろうか。けんちゃんも黒島のいくつかのちく産農家のおじさんたちにインタビューしてみました。

一人目のおじさん

私のところは25頭の牛を飼っているよ。歳だし、これ以上牛を増やすつもりはないな。牧場や牛舎はあまり大きくないけど、そのぶんのんびりできるからいいよ。

牛を育てるのは、老後の生きがいといったところかね。収入は決して多くはないけれど年金で生活できるからいいよ。ただ、大きな機械がないから牛を運ぶ時は少し困るな。近所の人にたのむことが多いよ。那覇で働いている息子が帰ってきてくれればいいんだが……。

二人目のおじさん

私のところは広い牧場で200頭近い牛を飼っているよ。牛を管理しやすいように大きな牛舎をつくったし、牛の移動に便利な大型トラックもそろえたよ。

島のちく産をますますさかんにするためにも、研究をかさねてより上質な牛をたくさん生産しようと思っているよ。ライバルの石垣の牛に負けない、いい牛をね。そのためにはお金や手間はとてかかるけれど、良い牛をつくるためにがんばらないと。



やってみよう

次のページにある写真はそれぞれ、どちらのちく産農家のものだろう。それぞれの写真の番号を入れよう。

一人目のおじさん

二人目のおじさん

(

)

(

)





考えてみよう

この2人のおじさんの話をひかくしてみよう。

ちがう点はどこだろう

()

同じ点はどこだろう

()

だけどね、それぞれが機械の貸し借りや牛のお産のときに、協力しあっているんだよ。

6. 黒島の将来

けんちゃんは大人になったらお父さんのあとをついでちく産をやりたいと思っています。そこで最近、黒島でちく産を始めた、近所のお兄さんに話をききに行くことにしました。

お兄さんのはなし

僕はね、長い間島をはなれて、本土のほうでちく産の勉強をしていたんだ。最近島にもどってきてちく産をはじめたよ。まだわからないこともあるけれど、他の若いちく産家たちと勉強会をひらいてちく産に関する情報をこうかんしあっているんだよ。今、飼っている牛は40頭くらいかな。本当はもっと広い牧場でたくさん飼いたいんだけど土地がないんだよ。

でもね、がんばって育てた牛が、セリで高いねだんをつけてもらったときは本当にうれしいよ。けんちゃんも大人になったらちく産をするんだって？けんちゃんはどんなちく産をしたいのかな。



考えてみよう

大人になったけんちゃん。どんなちく産をしているのだろう。予想してみよう。